



# 消防団、 思ったより      かも。

消防団って大変そう——そんなイメージがありませんか。

今月号では、「思ったより」続けやすく、得られる仲間や学びが多い消防団の姿を紹介します。

## 消防団って？

いなべ市消防団は、市全域を担当する本団と 15 分団（女性分団含む）から成る定員 327 人の組織です。消防署で勤務する消防士とは異なり、団員は市内に住み働く会社員や自営業者などが、本業の傍ら日頃の訓練や火災・災害対応にあたり、地域の安心を支えています。



1.2. 新入団員を対象にした普通科教育訓練の様子。消防士による丁寧な指導 3.4. 藤原地区団の役員訓練 5. 年初の出初式 6. 女性消防団による自治会向けの防災講座 7. 夏季訓練の様子。全分団が集まりいなべ公園で放水を行う 8. 団員募集を呼びかける大安南分団

思ったより  続けやすい  かも。



藤原第 3 分団 団員  
東松 賢也さん

令和 4 年入団。JA みえきた白瀬・中里支店に勤務。令和 6 年度の三重県消防操法大会に選手として参加経験有り。



1.2. 消防操法大会当日の様子 3. 藤原第 3 分団の団員

## 仕事や家族を持ちながらでも続けていける

藤原第 3 分団に入団して、今年で 4 年目になります。JA みえきたに入社したところから「そのうち消防団に誘われるよ」とは聞いていましたが、当時はどこか自分とは縁遠い世界のように感じていました。ですが、実際に入団してみると、顔なじみも多く、仕事や家庭を抱えながら無理のない範囲で続けている人ばかりで、いい意味で肩の力が抜けました。

活動は月 1 回ほどの点検で消防車に乗って町内を回り、火災予防のアナウンスや備品の確認などを行います。平日の 18 時 30 分から始まり、30 分ほどで終わることが多く、仕事が忙しくて行けないときも責められる雰囲気はありません。「仕事や家族を優先していい」と言ってもらえるのは心強いです。出動や訓練に参加した分の手当も個人に振り込まれ、負担だ

けではないところもありがたく感じています。

令和 6 年に消防操法の選手を務めた際は練習の時間が増えましたが、その分、話せる人が一気に増え、ホース延長などの消火技術も身につきました。自分が所属する分団は穏やかな雰囲気、活動後の食事の場も自由参加です。昔ながらの体育会系の印象とは少し違い、地域のつながりや防災の意識を、等身大の自分のままで考えられる場だと今は思っています。



## 職場の理解



JA みえきた 白瀬・中里支店  
支店長

葛山 宏さん

私も消防団の OB です。団員が呼ばれたときは、仕事の段取りさえつけば「行ってきた」と送り出すようにしています。

消防団を通じて地域の顔なじみが増えることは営業にもプラスになりますし、AED などの普通救命講習で万一の場面に備えられるのも、職場にとって心強いことだと感じています。

日々の生活を支える農協と、いざというとき地元を守る消防団。どちらも地域に根ざした組織としての役割があると感じます。



思ったより **楽しい** かも。

## 地域に知り合いが増えていく楽しさを



員弁第3分団 団員  
谷崎 晃司さん

平成27年入団。小学校教員。

入団のきっかけは、同じ地区の先輩から声をかけてもらったことでした。もともと祭りの青年団で顔なじみが多く、「あの人も消防団におるんやな」という感覚だったので、大きな抵抗はありませんでした。

教員の仕事だけをしていると、どうしても同じ職種の人としか関わり

がありませんが、消防団には会社員の方も、自営業の方もいて、全然違う世界の話聞けるのがすごく楽しいです。祭りや保育園、スポーツ少年団など、地域のあちこちで団員やその家族に会うことも多く、「知っている顔がいる」というだけで安心できる場面が増えました。

子どもにとっても、消防団は良いきっかけになると感じています。年末の夜間警戒のときなどに消防車を見せたり、タイミングが合えば少し乗ってもらったりすると、とても喜んでくれます。自分の親が消防団に入っていることで、消防車との接点が生まれるというのは、子どもにとって心に残る体験ではないかと思っています。

新しく入る人に対しては、「絶対に来いよ」と無理強いせず、来られるときに来てくれるだけでありが

たい、というスタンスで接しています。人と関わるのが嫌いであれば、消防団に入ることによって地域での知り合いや仲間が増え、暮らしていくうえでの居場所も広がっていくと感じています。



▲消防団車両と員弁第3分団の団員たち

思ったより **身になる** かも。



本団 指揮隊長  
水元 隆次さん

平成19年入団。市外の土木建築会社に勤務。北勢西分団の分団長を経て、今年度から本団の指揮隊長として活動中。

## 防災士や運転免許などの資格取得が豊富

消防団の活動は、思った以上に自分の「身になる」ことが多いと感じています。指揮隊長になった今年度、防災士の資格が得られる講習に参加し、そこで自助・共助の考え方や、自分と家族という「手の届く範囲の半径2メートル」を守るための備え



方を学びました。地図を使って地域の危険な場所や避難経路を確認するなかで、「大きな災害も自分ごとだ」と実感し、地域での備えも改めて考えさせられました。

我が家には小学生の子どもが3人います。本当は一緒に遊びたい時間を、訓練や会議に使わせてもらっているの、家を出るときはできるだけ「渋々出ていく父親」ではなく、「ちょっと守ってくるわ」と前向きな背中を見せたいと思っています。「何かあったとき地域を守るのもお父さんの役目なんや」とさりげなく

受講できる講習や補助制度

- ・防災士研修講座
- ・普通救命講習
- ・チェーンソー講習
- ・ドローン講習
- ・運転免許取得補助制度
- ・防火管理者資格 など

※対象となる条件がありますので、詳細は防災課（86-7746）まで問い合わせてください。

伝えながら、家族の理解に支えられて活動を続けてきました。

若い団員には「最初から地域全体を守ろうとしなくていいから、まずは身近で大切な人を守れる自分になろう」とよく話します。活動を重ねるなかで、守りたい範囲が家族から友人、地域へと少しずつ広がっていけば十分だと思います。また、車両を扱う場面も多いため、運転免許の取得費用を一部補助できる制度などもあり、「地域の役に立ちながら、自分の将来にも残るものが得られる場所」だと感じています。

## 新入団員に聞いたホンネ



大安南分団 団員  
梁瀬 玄馬さん

妻：怜実さん 子：想乃さん

### Q. 入団してみた感想は？

A. 入ってみると顔なじみの先輩も多く、普段はわいわいおちゃらけた雰囲気です。ただ、訓練や出動になると一気に真剣な表情に切り替わるので、「自分もちゃんと覚えなきゃ」と背筋が伸びます。

### Q. 仕事への影響は？

A. 仕事柄、昼間の出勤や日曜日の行事にはなかなか参加できません。その分、夜の点検など出られる時間帯にはできるだけ顔を出すようにして、無理のない範囲で仕事とのバランスをとりながら続けています。

### Q. 家族への影響は？

A. 妻も消防団のことはよく知りませんでしたが、「誰かがやらないとね」と理解してくれています。食事を伴う集まりや懇談の場は自由参加なので、行くときは事前に相談して、家族に負担がかからない範囲で参加しています。

## 地域を支える「もう一つの消防力」に感謝



いなべ消防署 署長  
伊藤 隆さん

消防団員は、日頃はそれぞれの仕事に従事しながらも、火災が発生すると自宅や職場から現場へ急行し、消防署と連携して消火活動や警戒業務にあたっています。また、平常時から広報啓発や訓練を通じて、地域の防災力向上に大きく貢献していただいています。日頃より地域の安全・安心のためにご尽力いただいている消防団員の皆さまに、心より感謝申し上げます。消防署だけでは対応が難しい場面も多く、山林火災をはじめ広範囲の災害時には多くのマンパワーが不可欠です。地域の安全を守るうえで、消防団の皆さまのお力は現実的にも心情的にも必要不可欠であり、欠かすことのできない存在です。

あなたの「思ったより」が、地域を守る力になります。  
身近な一歩として、消防団という選択肢をぜひ一度考えてみませんか。

市ホームページ▶

